

平成 28 年度 第 1 回 磐田市文化財保護審議会（結果概要）

日時 平成 28 年 8 月 16 日(火) 13:30～15:00
場所 磐田市埋蔵文化財センター 2階 研修室
出席者 磐田市文化財保護審議会委員 10名中7名
平野吾郎会長 小杉達副会長 芹澤拙夫委員 日比野秀男委員 増田千次郎委員
鈴木敬雄委員 中山正典委員
出席職員 教育委員会事務局 9名
秋野教育部長 高梨文化財課長 村松課長補佐 飯田主幹兼歴史文書館長 竹内
主幹兼調査グループ長 佐口主査 鈴木亮司主査 山内主査 安藤(囑託)
傍聴人 なし
議事 報告事項

①平成 28 年度「文化遺産を活かした地域活性化事業」に係る経過報告(豊岡地区遠州大念仏)及び府八幡宮例大祭の記録保存事業について

[事務局からの説明]

本年度については、豊岡地区に伝わる 7 つの大念仏のうち、大平、一貫地、合代島、松之木島の 4 つの念仏団について、撮影を中心に進めています。8 月 13 日から 15 日にかけて撮影・調査を行い、DVD などに記録保存した後、次年度に伝承版・普及版・ガイドブックなどを作成する予定で進めています。

また、磐田市坂上町より府八幡宮例大祭に係る記録事業についての提案がありました。前年度の審議会において、この事業に係る選定基準を設けさせていただきましたので、今回、坂上町からの提案について報告させていただくものです。

提案内容は、例大祭の記録保存と公開・配布と屋台の修理及びお囃子などの調査です。詳細については、記録事業としては浜垢離、例祭に伴う神事、会議、諸事業を撮影の対象にし、屋台の修理や組替作業、お囃子と舞、稽古風景などの調査・記録も行いたいとのことでした。

これらの内容について、選定基準にあるように、文化財保護法第 2 条、文化振興基本法などに定める伝統文化であることに合致していくか確認をお願いしたいと思います。

また、提案者からの聞き取り調査の中で、屋台祭りの会は機密の中で行われるものであり、部外者が立ち入って撮影や記録を取ることは困難であるとのこと確認しています。中泉全 20 町の屋台修理を含めた本事業を行っていくことについて、地域全体のコンセンサスを得るのは難しいと考えられます。

整理いたしますと、問題は 2 点あると考えています。一つは、府八幡宮例大祭が無形民俗文化財として記録するに値するような価値があるかどうか。もう一つは、全 20 町ある中で神事などについては全体を対象とするが、屋台などの修理に関しては 1 町

(坂上町)を対象としている。この2点に分けて確認していただければと考えています。

[主な意見]

・遠州大念仏の記録保存事業について問題はないが、保存の方法などはどうするのか。
⇒現状ではDVDに保存し、図書館などに置き公開していきます。また、簡易版も作成しホームページ上でも公開します。

- ・本事業を実施するうえで、誰の目から見ても「問題がない」、「価値がある」と思われるものであること、他の町内や他の神社から異論が出るようなやり方はすべきでないと考えます。
- ・府八幡宮の例祭自体は、価値がないとは言えません。記録・映像について、協力できるものは協力すべきであると思います。ただし、1町に特化して実施できるのではなく、20町の総意があって全体計画があって、府八幡宮の例祭をどう保存伝承し、活性化していくという視点がないと厳しいと思われまます。
- ・全体に通じる事業であればよいが、特定の団体や個人などに便宜を図るようなものはやめた方がよいと思います。
- ・府八幡宮の例祭そのものは問題にならないと思うが、町同士でコンセンサスが得られるかどうかだと思います。
- ・氏子総代会など、町を束ねて、意見調整が図れる場を設け、調整化していくことが必要。

⇒各委員の意見などを踏まえ、坂上町の代表の方には説明していきます。府八幡宮には氏子総代会という組織もありますので、全体として調整など可能かどうか説明していきます。

②遠江国分寺跡整備事業について

[事務局からの説明]

整備の内容については、前回の3月から基本的に変わっていません。ただ文化庁から一部指摘がありました。整備計画では基壇の復元について、遺構を保護しながら横に少し広げて復元するという案になっています。文化庁からは復原の方法について、「実寸の大きさを復元しなさい」ということであります。そうすると「盛土をして復元しなさい」ということになります。講堂や僧房は問題ないのですが、塔が一番の問題であります。整備委員会では千数百年もの間露出状態であったので、その状態で復元していきたいと考えていました。今後は各地の事例などを調べ、遺構を保護する形で文化庁とも協議していきます。

[主な意見]

・塔の礎石はいくつ残っているのか。

⇒2つです。発掘調査でいろいろな遺構の礎石を探したが、残っている礎石は塔の2つだけです。

③遠州豊田 PA 南地区発掘調査事業について

〔事務局からの説明〕

磐田市の施策に基づく発掘調査であります。もともとは2万㎡位の規模で調査を行う予定であったが、地権者の同意が得られないなどの事情により4分の1程度の規模で行っています。8月から本格的に調査が始まりました。まだ実態は完全にはわかっていませんが、旧石器時代から古墳時代の遺跡が出ています。

〔主な意見〕

・人骨は出ないのか。沖縄などはかなりの数出ているが。

⇒磐田原は酸性土壌でありますので。(溶けてしまう)沖縄は人骨研究の最先端を行っていると思います。

④天然記念物部会経過報告について

〔事務局からの説明〕

平成27年度に磐田駅前周辺工事に絡み、芹澤委員に大クスの調査と指導を行っていただきました。その後、工事も完了し周囲の状況も変わりましたので、大クスへの影響について意見交換を行った。

熊野の長フジについては、保勝会から管理の現状について報告を受けた。それを受け、現地確認など今後の管理方法について意見交換を行った。

〔主な意見〕

・2006年に都市整備課より依頼があり調査を行って報告書を提出しています。当時は、枯れ枝もなく比較的元気であったが、その後に今の状態になってしまった。工事完了後の公園の面積を見てもわかるように、65%になってしまっています。一層厳しい状況になっている。対策としては、あの範囲内で(ポットのような状態)土壌を変えていくしかない。少しずつ根を張らせながら全体を変えていくしかない。

もう一つ問題は、公園面積が小さくなっているということで、伸びていた根を切ったということになる。適正な処置がされていないと、そこから腐りが始まり、この腐りが中に入って空洞ができ枯れてしまう。だいたいこの間10年から15年である。
⇒本日、委員からいただいたお話を都市整備課とも協議をしながら進めます。また、管理の方法や樹勢についても、進め方も含めて協議していきたいと考えています。

⑤津倉家について

〔事務局からの説明〕

昨年度に和風住宅部分の作図と耐震の簡易診断を行った。今後どのような使い方を
するにせよ、ある程度耐震補強を経ないと安全性に問題があるとの見解が出ています。
今年度については、建物の立面図と増築された洋館の図面作成を行っていきます。ま
た、確認出来ていない床下についても調査を行いたいと考えています。

〔主な意見〕

- ・登録有形にしたり、市の指定にして人を中に入れて活用していくとなると、構造計
算などを実施したうえで耐震補強が必要となってくる。その他にもスプリンクラー
や火災報知器、非常照明などの設置が必要で、避難路を含めた防災計画が必要であ
る。

⇒意見を踏まえ協議していきます。